



BECC JAPAN 2014

セッション 2:

省エネルギー行動変容と教育取り組み事例

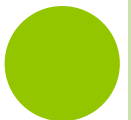
家庭科における省エネ教育の動向と課題

工藤由貴子

横浜国立大学教育人間科学部

本日本話したいこと

- 1) 家庭科における省エネ教育
どのように位置づけられ実践されてきたか
- 2) 家庭科で行う省エネ教育
- 3) 課題



1 家庭科における省エネ教育(1)

○教育基本法の改正(2006)

教育の目標(第二条)

生命の尊重や環境の保全に寄与する態度

伝統と文化の尊重や郷土愛、国際社会の平和と

発展に寄与する態度

○消費者教育推進法(2012)

消費者市民社会の形成に主体的に参画する

消費者の育成



1 家庭科における省エネ教育(2)

家庭科の歴史をみると、明示的に環境教育が導入される以前から、限りあるものを大切に、物の価値を生かし切る、無駄をなくす、節約、再利用・リサイクルなどの、いわゆる「もったいない」に表わされるような生活観・生活行動は、教科全体を貫いて、思想の基盤を形成する重要な概念であった。

「合理的な生活」

「生活の無駄に気づき、改善のための工夫をする」 (小S31)

「無駄を排する」

「節約する」「効率を高める」

「合理化 労力、時間、資源、金銭の計画的利用」

「労力の節約」 (高校S31)



1 家庭科における省エネ教育(3)

省エネが学習課題とされる文脈

自分や家族の欲求を満たすために必要なものをつくる時代

手順 段取り 作業の効率 計画性 能率的方法

自分や家族の欲求を満たすためにもものを購入する時代

次々に生み出される新しい技術を使いこなす時代

選択的な物資の購入や使用 消費者としての社会的自立

自らの選択によってライフスタイルを創る

生活の質の追求 環境・福祉へのニーズの高まり 成熟社会

自分や家族の欲求の充足だけでなく環境醸成する生活者

地球への責任、共生、消費者市民

1 家庭科における省エネ教育(4)

1998年の学習指導要領の改訂から

家庭科の学習には環境に関しての近隣の人々とのかかわりや環境配慮的な生活様式が含まれ、内容全体にわたって消費者教育的な視点とともに環境は重要な要素となっている。

小学校、中学校、高校と段階を追ってその視点を広げつつ、具体的な事例を通じて、環境負荷の少ない生活について考え、自らの生活意識やライフスタイルを見直し、生活を創造する主体として持続可能社会の構築を目指すことが学習課題となっている。



1 家庭科における省エネ教育(5)

教科を通しての目標

生活を創造する主体として持続可能社会の構築を目指す

特に、家庭科において

主体的な消費者を育む視点から資源や環境に配慮した
ライフスタイルの確立を目指す

<小学校家庭科>

身近な消費生活と環境

環境に配慮した生活の工夫 自分の生活と身近な環境とのか
かわり 物の使い方などを工夫する。環境にできるだけ負荷を
かけないように 物を長く使う 無駄なく使いきる 再利用する
リサイクル

1 家庭科における省エネ教育(6)

< 中学校技術・家庭科(家庭分野) >

家庭生活と環境について 自分や家族の消費生活が環境に与える影響について考え、環境に配慮した消費生活について工夫し、実践する。

リサイクル 電気、ガス、水道の利用状況
ごみの減量化 衣食住の生活の仕方と環境

持続可能な社会の構築にむけて

循環型社会を形成する基盤となる環境に配慮した生活を工夫する



1 家庭科における省エネ教育(7)

<高等学校家庭>

- 持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫し、主体的に行動する。
- 経済発展や大量生産・大量消費・大量廃棄の生活により、様々な問題が生じていることに気づき、消費生活と環境とのかかわりについて理解する。
- 企業の取り組み 行政 国際的な取組 社会経済システムの見直し
 - ✓ 「もったいない」「地球規模で考え地域で行動する」
- 自らの消費行動で環境負荷を低減させ進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践する
 - ✓ 商品の選択 購買行動 使い方 廃棄の仕方
 - ✓ 環境負荷の少ない衣食住の生活の工夫
 - ✓ 生活文化の伝承



2 家庭科で行う省エネ教育(1)

生活を工夫する楽しさ ⇔ 省エネ

- 合理的・計画的な生活の工夫 → 物 お金 時間 を生かす
- 快適な生活の工夫 → 物を生かすこと 自然を生かすこと

「物を生かして快適に生活しよう」

環境に気配りした住まい方を考え、物を生かして生活していきましょう

「自然を生かした住まい方を考えよう」

自然を生かした方法を組み合わせ、限りあるエネルギーを大切に効率よく使って、快適に過ごす工夫をしましょう。



2 家庭科で行う省エネ教育(2)

生活問題の解決
(考える・行う)

生活の価値認識
(気づく)

生活の科学的認識
(知る・わかる)

生活技術
(できる)

(資料出所: 中間美砂子「家庭科教育法」建帛社

2 家庭科で行う省エネ教育(3)

- 環境と生活のかかわり「もったいない」に象徴される社会観の養成という視点と、日常生活の営みにおいて生起する様々な課題を横断的につなぐ視点とを併せもつ。

「環境負荷の少ない食生活」

食品ロスの削減 地産地消 フード・マイレージ

「上手な着方で省エネルギー」

着装による工夫 季節に合った着方

新素材の開発技術の向上 涼しいスーツ 暖かい肌着

「環境への負荷を減らす住まい方」

住宅の寿命を延ばす 中古住宅の利用

自然の恵みを生かした住まい



2 家庭科で行う省エネ教育(4)

- 小学校、中学校、高等学校を通して学び続ける。

生活と環境とのかかわりについて理解し、持続可能な社会を目指してライフスタイルを工夫する。

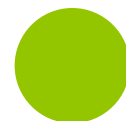
自らの消費行動で環境負荷を低減させ進んで地球環境保全に貢献できるライフスタイルを実践する

- 自分自身の暮らし、コミュニティ、地球環境を結ぶ広がりの中で課題を捉え、特に、単に個人の行動を省エネに変えることに留まらず、そのことを通じてコミュニティを形成する視点が貫かれている。



2 家庭科で行う省エネ教育(5)

- 伝統文化、世代を超えて継承されてきた生活の営みを尊重し、それを現代的な視点で読み解くという時間的な広がり、すなわち、現代と未来に責任をもつ思考として捉えられている。
- 江戸時代の循環型システム
- 和服 の持続可能性
- 伝統的な省エネルギーの住宅
- 地域の伝統食



3 課題「持続可能な社会を創る家庭科」 実践的な提案までの道のり

- 持続可能なライフスタイルの創造とは、どのように生活し物を購入し、消費するかを考え直すことを意味する。
- しかし、それだけにとどまらない。日常生活のありようを考え直し、現在より公平で、自然環境と調和した暮らしへと、社会を変革することをも意味する。
- 現在の持続不可能なライフスタイルが人間の幸福、達成、安全に対する希望に結び付かないという結論に至るまでの思考・議論。
- だれにとっても望ましいバランスを見つける。
- 実践的な提案には生活の文化、地域性、価値が大事



参考資料

- 文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説 家庭編』東洋館出版
- 文部科学省(2008)『中学校学習指導要領解説 家庭編』教育図書出版
- 文部科学省(2010)『高等学校学習指導要領解説 家庭編』開隆堂出版
- 小学校家庭科教科書各社版
- 中学校技術・家庭科家庭分野教科書各社版
- 高等学校家庭総合教科書各社版

